

# 高齢化で自治会解散、蛍光灯の交換もままならない...

住民の高齢化で、地域が立ち行かなくなっている。地方では、大都会・新宿の話。そこには、日本の将来を暗示するかのような問題が山積している。

「実際に何度か、孤独死の現場に立ち会ったことがあります。都は合鍵すら預かってくれず、発見も通報もすべて住民がやらなければならぬんです。あの死臭といったらないですよ、しばらくご飯がのどを通らないんです」

そう語るのは、NPO法人「人と人をつなぐ会」(以下「つなぐ会」)の平井貴氏(58)。同法人は、東京都新宿区にある戸山団地で、住民の高齢化への支援活動をおこなっている。学生でにぎわうJR高田馬場駅から徒歩10分。東京都庁からも歩いて30分程度の場所に、戸山団地はある。正式名は「都営百人町三丁目・四丁目アパート」。全17棟・総戸数約2千戸という、都心有数の大規模団地だ。この戸山団地が今、住民の高齢化問題で揺れている。昨年の調査で、百人町四丁目に暮らす住民の高齢者(65歳以上)の比率が、51.6%と過半数を超えたことが明らかになったのだ。

住民の過半数が高齢者となった集落は「限界集落」と呼ばれ、過疎に悩む地方部では、深刻な問題となっている。窓から高層ビルが望めるような大都会で、地方と同じ問題が起きていたのだ。

**「ひとり暮らしになっても起る『突然死』」**

住民の高齢化が進むと、さまざまな問題が生じてくる。代表的なものは、ひとり暮らしの老人が亡くなり、長期にわたってそれが気づかれぬ「孤独死」の問題だ。平井氏によれば、3棟で年間17人が、孤独死などで亡くなったことがあったという。

「そういうところは話したい、新聞がたまっていたり、近所の人が最近、物音を聞いていなかったりしますね。以前、立ち会った例では、近所に暮らす家族が、最近、連絡がないと私のところへ相談に来て、実際に行ってみると、亡くなっていたということがありました」

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会

が実質、解散してしまっただけもあり、(新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏)

現在、団地の多くの棟では、共益費を集め、管理を業者に委託するなどこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私

「ともにも70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて、いつまでも出てこないで、行ってみるとすでに亡くなっていて、ということもありました」(平井氏)

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならぬ。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会

が実質、解散してしまっただけもあり、(新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏)

現在、団地の多くの棟では、共益費を集め、管理を業者に委託するなどこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私

「ともにも70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて、いつまでも出てこないで、行ってみるとすでに亡くなっていて、ということもありました」(平井氏)

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならぬ。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会

が実質、解散してしまっただけもあり、(新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏)

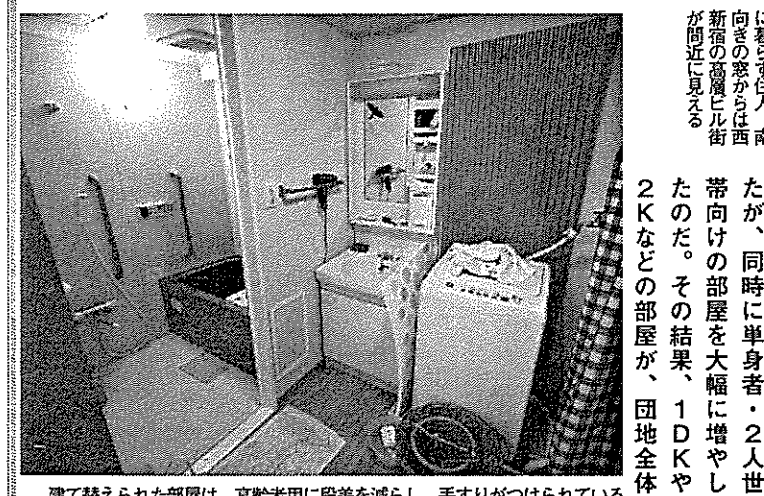
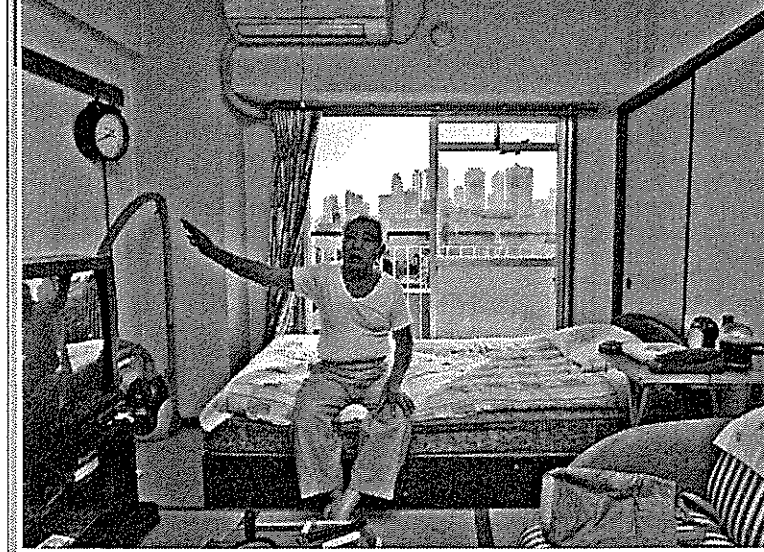
現在、団地の多くの棟では、共益費を集め、管理を業者に委託するなどこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私

「ともにも70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて、いつまでも出てこないで、行ってみるとすでに亡くなっていて、ということもありました」(平井氏)

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならぬ。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会



建て替えられた部屋は、高齢者用に段差を減らし、手すりがつけられている

# 東京・新宿に出現 限界集落 都営団地を行人

**65歳以上の住民の過半数が**



「昨日9月に減便され、1時間1本の運行となりました。高齢者は、徒歩ではスニーカーも持っていきません」(つなぐ会代表・本庄有由氏)

戸山団地は坂の頂上にある。高齢者にはこの坂を上るのは、かなりの重労働だ。バスの廃止は、まさに死活問題なのだ。これらの問題を解決すべく、住民がNPO法人を結成。社会福祉協議会などと連携しながら対策を立てている。

「孤独死防止に、ポタンひとつでコールセンターとつながるホットラインを設置しました。また今年8月には、団地の近くにある特別養護老人ホームで、地元の老人会の方々と住民の食事会を開きました」(前出・本庄氏)

一方、大家、でもある東

「ひとり暮らしになっても起る『突然死』」

住民の高齢化が進むと、さまざまな問題が生じてくる。代表的なものは、ひとり暮らしの老人が亡くなり、長期にわたってそれが気づかれぬ「孤独死」の問題だ。平井氏によれば、3棟で年間17人が、孤独死などで亡くなったことがあったという。

「そういうところは話したい、新聞がたまっていたり、近所の人が最近、物音を聞いていなかったりしますね。以前、立ち会った例では、近所に暮らす家族が、最近、連絡がないと私のところへ相談に来て、実際に行ってみると、亡くなっていたということがありました」

「ともにも70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて、いつまでも出てこないで、行ってみるとすでに亡くなっていて、ということもありました」(平井氏)

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならぬ。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会

が実質、解散してしまっただけもあり、(新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏)

現在、団地の多くの棟では、共益費を集め、管理を業者に委託するなどこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私



「つなぐ会」が設置した緊急ブザー。24時間、いつでもオペレーターにつながる

「建て替え前は風呂もシャワーもなかったんで、それに比べればいい造りになったかな。ですが単身者ならまだしも、ここに2〜3人の世帯が住む可能性もあるんですよ。トイレの仕切りがカーテンしかないから、気を使って用を足さなきゃいけないのはねえ……」(部屋の住人)

また、建て替え後の部屋の

「ひとり暮らしになっても起る『突然死』」

住民の高齢化が進むと、さまざまな問題が生じてくる。代表的なものは、ひとり暮らしの老人が亡くなり、長期にわたってそれが気づかれぬ「孤独死」の問題だ。平井氏によれば、3棟で年間17人が、孤独死などで亡くなったことがあったという。

「そういうところは話したい、新聞がたまっていたり、近所の人が最近、物音を聞いていなかったりしますね。以前、立ち会った例では、近所に暮らす家族が、最近、連絡がないと私のところへ相談に来て、実際に行ってみると、亡くなっていたということがありました」

「ともにも70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて、いつまでも出てこないで、行ってみるとすでに亡くなっていて、ということもありました」(平井氏)

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならぬ。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会

が実質、解散してしまっただけもあり、(新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏)

現在、団地の多くの棟では、共益費を集め、管理を業者に委託するなどこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私

「ともにも70代の夫婦だったんですが、旦那さんが浴室で倒れたんです。ところが奥さんの耳が不自由で、すぐに気付かなくて、いつまでも出てこないで、行ってみるとすでに亡くなっていて、ということもありました」(平井氏)

また都営団地は、「家賃を抑える分、自分のことは自分で」の建前のもと、管理人を置いていない。そのため共有部分の蛍光灯などが切れた場合、住民が交換しなければならぬ。

「蛍光灯の交換からエレベーターの修理の要請まで、すべて住民で対処しなければなりません。お年寄りには厳しいですよ。かつては各団地の自治会がその役割を担っていましたが、戸山団地では自治会

が実質、解散してしまっただけもあり、(新宿区社会福祉協議会・田宮一茂氏)

現在、団地の多くの棟では、共益費を集め、管理を業者に委託するなどこの問題をしのいでいる。しかし住民の高齢化が著しく、共益費集めに支障をきたす場合も多い。

「私は年に160本、電球を取り替えたこともありますよ。私

**美容整形 美容外科 こいずみ形成ミーティア美容クリニック**

名門No.1 美容整形 美容外科

ミーティア注目の治療ランキング

- 1 ボトックス注射 価格52,500円
- 2 プチ隆鼻 価格42,000円
- 3 二重埋没法 価格63,000円

お電話でのお問い合わせは 052-957-8600

スポンサーブログWeb女性自身で連載中!

世木みやび×小泉院長の心も肌も美しく

▶▶▶ <http://jisin.jp>

ドクターコスメ 通販も開始!